

ADHERING METHOD FOR MEMBER BY LASER

Patent Number: JP62142092
Publication date: 1987-06-25
Inventor(s): USHIKI YOJI
Applicant(s): HONDA MOTOR CO LTD
Requested Patent: ☐ JP62142092
Application Number: JP19850284650 19851217
Priority Number(s):
IPC Classification: B23K26/00
EC Classification:
Equivalents: JP1829720C, JP5042336B

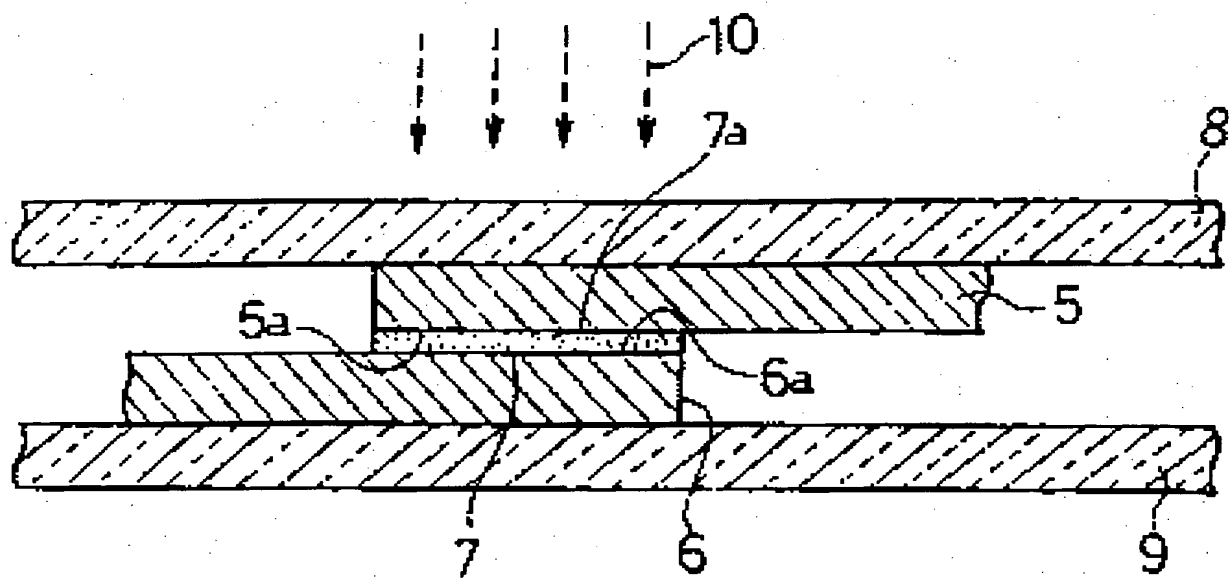
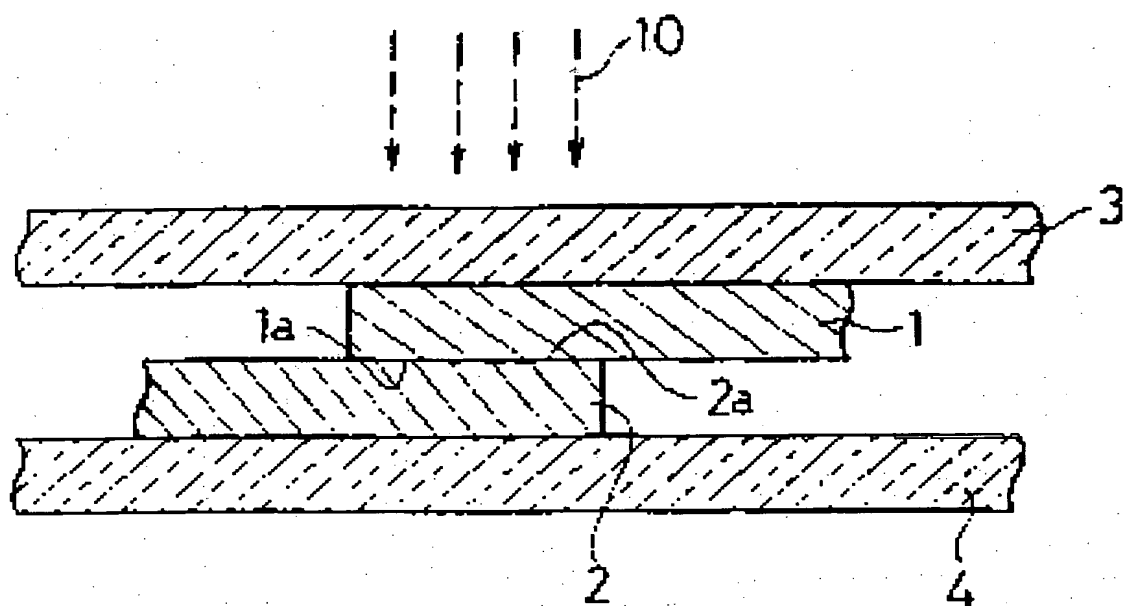
Ref 3

Abstract

PURPOSE: To adhere thermoplastic tight contact members one of which allows the transmission of laser light or members which are interposed with a laser absorptive adhesive agent and one of which has transmission without deviation and oxidation by irradiating the laser light to the above-mentioned members.

CONSTITUTION: Resin materials 1, 2 which both have thermoplasticity and one of which allows the transmission of the laser light are tightly adhered by glass plates 3, 4 or members 5, 6 at least one of which has the transmittivity are tightly adhered via an adhesive agent which absorbs the laser light, for example, ferrite, etc., interposed therebetween. The laser light 10 is irradiated on the members from the material 1, 5 side to heat and join the joint surfaces 2a or the adhesive agent 7. The members are satisfactorily joined without the generation of the deviation and oxide in the joined part and the joining can be executed regardless of the joining materials. The adhesive agent 7 may not contain the ferrite, etc., if the lower plate 6 of the two plates 5, 6 has no transmittivity.

Data supplied from the esp@cenet database - I2



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-142092

⑬ Int. Cl.⁴

B 23 K 26/00

識別記号

3 1 0

庁内整理番号

7362-4E

⑭ 公開 昭和62年(1987)6月25日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 レーザによる部材の接着方法

⑯ 特 願 昭60-284650

⑰ 出 願 昭60(1985)12月17日

⑱ 発 明 者 牛 木 陽 二 上福岡市上野台2-3-85-107

⑲ 出 願 人 本田技研工業株式会社 東京都港区南青山2丁目1番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 下田 容一郎 外3名

明 細 書

1. 発明の名称

レーザによる部材の接着方法

2. 特許請求の範囲

共に熱可塑性を有し、一方のみがレーザ光を透過する透過性を有する第1、第2の樹脂材を密着せしめ、

又は少なくとも一方が透過性を有する第1、第2の部材をレーザ光を吸収して加熱されることで接着作用を有する接着剤を介して密着せしめ、

前記透過性を有する樹脂材又は前記透過性を有する部材を介してレーザ光を照射し、第1、第2の樹脂材又は第1、第2の部材を接着するようにしたレーザによる^{接着}接着方法。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明はレーザを利用した樹脂材等の部材の接着方法に関する。

(従来技術)

従来、樹脂材等の部材の接着方法には超音波加

熱、振動による摩擦熱、熱板等を利用して熱可塑性を有する樹脂材を溶融させて接着を行う方法、あるいは例えば接着させようとする部材間に接着剤を介在せしめ、この接着剤を電磁誘導により加熱させることで接着力を生ぜしめ接着を行うようにした方法が知られる。

(発明が解決しようとする問題点)

しかしながらかかる方法によれば、前者の場合、即ち超音波加熱、振動による摩擦熱、熱板等を利用する場合には、溶融した樹脂が空気に触れ反応し易いこと、又接着時において樹脂材を接着位置に密着させるようにするため位置ずれが生じ易いという問題がある。

又、後者の場合、即ち接着剤を電磁誘導にて加熱して接着させる方法においては、予じめ接着剤の中にフェライトなどを混入させておかねばならずコストが高くなり、又配設される誘導コイル等の形状から被接着物の形状が拘束されるという問題がある。

そこで、本発明はかかる従来問題点を解決す

べく成されたもので、その目的とする処は、溶融部が酸素と反応し難く、接着時に位置ずれが生ずることなく、又、接着剤を用いた接着においては、接着剤にフェライトを混入する必要もなく低コストで、しかも誘導コイル等により被接着物の形状が拘束されることもない部材の接着方法を提供するにある。

(問題点を解決するための手段)

上述した問題点を解決するため本発明は、共に熱可塑性を有し、一方(1)のみがレーザー光(10)を透過する透過性を有する第1、第2の樹脂材(1)、(2)を密着せしめ、又は少なくとも一方(5)が透過性を有する第1、第2の部材(5)、(6)をレーザー光(10)を吸収して加熱されることで接着作用を有する接着剤(7)を介して密着せしめ、前記透過性を有する樹脂材(1)又は前記透過性を有する部材(5)を介してレーザー光(10)を照射し、第1、第2の樹脂材(1)、(2)又は第1、第2の部材(5)、(6)を接着するようにしてなる。

(作用)

そしてかかる後に第1の樹脂材を支持するガラス板(3)、及び第1の樹脂材(1)を介して例えばYAGレーザー等のレーザー光(10)を第2の樹脂材(2)に向けて照射すると、レーザー光(10)はガラス板(3)及び第1の樹脂材(1)を透過して第2の樹脂材(2)の接着面(2a)にて吸収され、両接着面(1a)、(2a)を加熱溶融し、第1、第2の樹脂材(1)、(2)を接着せしめる。

第2図は加熱されることにより接着作用を有する接着剤を用いた接着方法を示す図である。

第2図において(5)、(6)は夫々例えばポリエチレンからなる第1、第2の部材であり、このうち第1の部材(5)はレーザー光(10)を透過させる透過性を有する。そして夫々接着させる接着面(5a)、(6a)を例えばカーボンブラックを含有するポリエチレン(7)を介在させて密着させ、第1、第2の部材(5)、(6)を透過性を有するガラス板(8)、(9)で支持する。ここで前記ポリエチレン(7)は加熱されると溶融し接着作用を有する接着剤として機能する。

前記手段によれば、レーザー光(10)は透過性の樹脂材(1)、又は透過性の部材(5)を透過して他方の樹脂材表面(2a)又は接着剤表面(7a)にて吸収され、第1、第2の樹脂材(1)、(2)の接合面を加熱溶融させ、又は接着剤(7)を加熱して第1、第2の樹脂材(1)と(2)又は第1、第2の部材(5)、(6)とを接着することができる。

(実施例)

以下に本発明の実施例を添付図面に基づいて説明する。

第1図は共に熱可塑性を有する樹脂材の接着方法を示す図である。

第1図において(1)は熱可塑性を有し、レーザー光(10)を透過させる透過性を有する第1の樹脂材、一方、(2)は同じく熱可塑性を有するがレーザー光を透過させる透過性は有しない第2の樹脂材であり、この第1の樹脂材(1)と第2の樹脂材(2)との接着すべき接着面(1a)、(2a)を夫々密着させ、両樹脂材(1)、(2)を透過性を有するガラス板(3)、(4)にて支持する。

そしてかかる後に第1の部材(5)を支持するガラス板(3)、及び第1の部材(5)を介して例えばYAGレーザー等のレーザー光(10)を接着剤として使用されたカーボンブラックを含有したポリエチレン(7)に向けて照射すると、レーザー光(10)はガラス板(8)及び第1の部材(5)を透過してポリエチレン(7)の表面(7a)にて吸収され、該ポリエチレン(7)を加熱溶融して第1、第2の部材(5)、(6)を接着せしめる。

こうして本発明によれば接着すべき樹脂材等の部材を予じめ密着させて支持させておき、しかる後にレーザー光にて非接触で接着するようにしたため、接着面の位置ずれが生ずることなく、又、接触面が酸素に触れて反応することなく、更に接着剤を使用する場合にも従来のようにフェライトを混入させておく必要もない。更に又、レーザー発振器の位置等を適宜に変更することで被接着物等の形状が拘束されることもない。

尚、本発明は実施例に限定されることなく、例えば本実施例では樹脂材等の支持をガラス板等を

用いて行ったが、これに代わり透明なアクリル板等を使用するようにしてもよく、又あるいは他の支持方法を用いるようにしてもよい。

(発明の効果)

以上の説明より明らかな如く本発明によれば、溶融部が酸素と反応し強く、接着時に位置ずれが生ずることもなく、又接着剤を用いる接着においては接着剤にフェライトを混入する必要もなく低コストで、更に誘導コイル等により接着物の形状が拘束されることもないレーザによる部材の接着方法を提供し得る。

4. 図面の簡単な説明

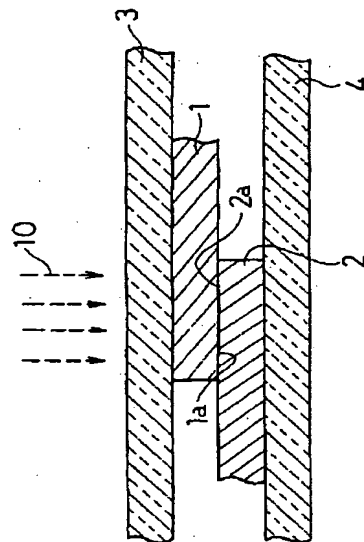
第1図は共に熱可塑性を有する樹脂材の接着方法を示す図、第2図は加熱されることにより接着作用を有する接着剤を用いた接着方法を示す図である。

そして図面中(1)は透過性を有する第1の樹脂材、(2)は透過性を有しない第2の樹脂材、(3)、(4)、(8)、(9)はガラス板、(5)は透過性を有する第1の部材、(6)は第2の部材、(7)は接着剤、

(10)はレーザ光である。

特許出願人	本田技研工業株式会社
代理人	弁理士 下田 啓一郎
同	弁理士 大橋 邦彦
同	弁理士 小山 有茂
同	弁理士 野田 茂

第1図



第2図

